

2014（平成 26）年度年賀寄附金配分事業の事例紹介

1. 活動・一般プログラム

事例 1-1	特定非営利活動法人 全国女性シェルターネット（東京都文京区）
事業名	DV・性暴力被害者支援員養成とスキルアップのための講座支援事業
事業種別	社会福祉の増進を目的とする事業
配分額	500 万円
<p>【事業内容】</p> <p>DV・性暴力の深刻な実態が明らかになる中、NGO・NPO 等の DV・性暴力被害者支援に関わっているスタッフ、公的関係諸機関で相談支援業務に関わる職員、相談支援事業に関心のある一般市民等を対象に、基礎講座（3 日間）及び実践講座（3 日間）を、2 期に分けて実施した。</p> <p>受講後のレポートによると、ほとんどの参加者が実践的スキルアップを実感している。また、それぞれの現場に戻ってからの学び直しへの意欲が高く、受講者が獲得したものを持ち帰ることによる職場全体のスキルアップが期待できる。</p> <p>また、様々な支援現場から参加した受講者同士の連携が生まれ、支援ネットワークが強められた。</p> <p><講座の内容・実施状況等></p> <p>1 基礎コース：10 月（43 人受講）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ DV・性暴力被害にかかわる支援理念 ・ DV 防止法と関係諸法律の概要 ・ DV・性暴力被害者にかかわる社会支援 ・ DV・性暴力被害者支援 ・ 性暴力の構造と被害実態 <p>2 実践コース：11 月（50 人受講）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 性暴力救援センター・大阪実践報告 ・ 特別な配慮を必要とする人々への支援 ・ DV・性暴力裁判事例と司法的課題 ・ ケース検討 ・ ワークショップ <p><参加者の声></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 全国から集まった同じ志の方々と、3 日間業務に直結する学びを深められたことを大変嬉しく思った。 ・ 支援者としての責務、専門性の在り方を見直す機会となった。相談員としての原点に戻り、自分をメンテナンスした気持ちになった。 <p>【参考写真】</p> 	

事例 1-2	特定非営利活動法人 思いをつなぐ会（群馬県高崎市）
事業名	有事に子どもたちが自分で自分の身を守るための実践体験事業
事業種別	青少年の健全な育成のための社会教育を行う事業
配分額	290 万円

【事業内容】

子どもたちが一人である時に災害が起きてしまった際に、自分の身は自分で守れるようにするためには、子どものうちから防災体験を重ねておくことが重要であることから、いざという時に役立つ防災学習会を開催し、炊き出し、AED 実習、バケツリレーなどを行った。

50 体の人形を使用し、子どもが主体となって AED 講習と心臓マッサージの練習を行い、AED を使用することは怖くないということを経験してもらったり、障がいがある方と一緒に被災した場合に必要な対応の仕方を講演するなど、子どもたちにとって大変有意義な機会となった。

学習会の実施後、参加した人が同じ講師を招いて学習会を実施したり、地域の防災活動の参考にするための問合せが多数あるなど、活動も広がりを見せた。

<実施状況>

○6 月と 10 月の 2 回実施

- ・ 6 月参加者：約 400 人（幼児・小学生 70 人、高校生・大学生 25 人、一般 275 人、ボランティア 30 人）
- ・ 10 月参加者：約 150 人（幼児・小学生 30 人、高校生・大学生 80 人、一般 20 人、ボランティア 20 人）

<主な内容>

- ・ AED 講習（6 月）、障がい者への対応に関する学習会（10 月）
- ・ 折りたたみヘルメット（6 月）、防災キット（10 月）の配布
- ・ パネルによる学習会 ・ 炊き出し体験（アルファ米試食を含む）
- ・ 子どもたちにも分かりやすい防災冊子の配布
- ・ バケツリレーゲーム、騎馬戦の応用、簡易担架作り
- ・ 防災人形劇と防災紙芝居
- ・ 県の出前講座と起震車体験（6 月）
- ・ 子ども救急法（10 月）

<参加者の声>

- ・ 地域での炊き出し体験を予定していたのでとても参考になった。
- ・ 人形を使って AED の体験ができたので分かりやすかった。
- ・ 目の不自由な人が避難所でどんなことをしてほしいか分かって良かった。自分で考えていたことと違うこともあり驚いた。

【参考写真】



2. 活動・チャレンジプログラム

事例2	特定非営利活動法人 おかやま多機能サポートネット（岡山県笠岡市）
事業名	高齢者等への安否確認を兼ねた配食事業
事業種別	社会福祉の増進を目的とする事業
配分額	30万円
<p>【事業内容】</p> <p>認知症の発症や男性高齢者が独居となった際など、食事作りが課題となる。それらの方々は、外出も困難で、買い物にも出ずにひきこもりとなることがほとんどである。このことから、地域の安心、安全を見守るため、独居のお年寄りを訪問し、直接手渡しで無事を確認してお弁当を手渡す、という安否確認を兼ねた配食事業を実施した。</p> <p><活動内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ・通所介護事業の栄養士、調理師による調理を、午後、弁当パックに詰め、15時30分以降に夕食として配達した。 ・必ず顔を見て、安否を確認の上、手渡した。 ・申込用紙には、調理形態や配達時間のほか、万一の時の連絡先も記入いただいた。 ・糖尿病、高血圧症等の病気や、好み、きざみなど、極力個人の事情に合わせた。 <p><活動実績></p> <ul style="list-style-type: none"> ・配食回数：155回 ・のべ食数：1,637食 ・対象人数：24人 ・本年の新規者：10人 ・本年の中止者：4人（施設への入所等） <p>【参考写真】</p>	
	

3. 施設改修

事例 3-1	社会福祉法人 ほっこり福祉会（大阪府貝塚市）
事業名	避難路確保のための造成工事及び舗装工事
事業種別	社会福祉の増進を目的とする事業
配分額	500 万円
<p>【事業内容】</p> <p>障がい者支援施設の災害時の避難経路を確保し、施設利用者にとって安全な施設とするとともに、災害時要援護者の避難場所として受入れ可能な施設とするための改修工事を実施。</p> <p>以前は、災害時にエレベーターが使用できないことを考慮すると、車椅子の避難が難しい状況だったが、2階多目的ホール及び1階から空地に至る避難経路の整備・舗装、崖崩れ防止のための擁壁設置により、施設全体の安全性を確保した。</p> <p>また、今回の工事により造成された空地について、夏祭りを実施するなど有効に活用している。</p>	
<p>【参考写真】</p> 	

事例 3-2	公益財団法人 山本能楽堂（大阪府大阪市）
事業名	国登録有形文化財・山本能楽堂の能舞台の檜皮葺改修事業
事業種別	文化財の保護を行う事業
配分額	500 万円
<p>【事業内容】</p> <p>65 年以上一度も補修されていなかった国登録文化財である山本能楽堂の能舞台の檜屋根改修（檜皮葺き替え）工事を実施。屋根の葺き替えにより、能楽堂の雰囲気が一変し、静謐な空間が創出された。</p> <p>工事の様子も一般に公開し、2 日間で 52 人が見学。工事後も、「檜皮葺き替え」という日本の貴重な伝統技術について、来場者に分かりやすく展示・公開している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・能楽堂の見学者が対前年比 50%以上増加 ・タイ首相夫人が訪れるなど、ユニークベニューとしても活用 	
<p>【参考写真】</p> 	

4. 機器購入

事例 4-1	社会福祉法人 心愛（大阪府枚方市）
事業名	障がい福祉サービス事業所心学塾作業所の焼菓子生産アップのための製造機器の増備事業
事業種別	社会福祉の増進を目的とする事業
配分額	400 万円
<p>【事業内容】</p> <p>障がい者の就労支援・工賃増加のため、独自のパイづくりを進める焼菓子工房の製造機器の増備を行った。</p> <p>上質なパイ・焼菓子の生産により、ふるさと小包「思いやりのギフト」に取り上げられたり、百貨店やインターネットを通じた受注が入るなどし、生産量を増加したことによって売上アップにつながった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年間焼菓子売上額 : 約 900 万円（2013 年比 : 約 200 万円増） ・工賃（月） : 25,000 円（2013 年比 : 約 3,000 円増） ・利用者 : 15 人（2013 年比 : 3 人増） 	
<p>【参考写真】</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div>	

事例 4-2	社会福祉法人 鶴翔会（福島県会津美里町）
事業名	障がい者支援施設ゆきわり荘入浴介助の入浴リフト新規設置事業
事業種別	社会福祉の増進を目的とする事業
配分額	220 万円
<p>【事業内容】</p> <p>障がい者支援施設に入浴介助のための入浴リフトを新規設置した。重度の身体障がいがある方も、リフトに身をゆだね、安心して入浴を楽しむことが可能となり、施設生活の中での大きな楽しみである入浴を安心・安全な形で行えるようになった。</p> <p>また、介護職員の負担が軽減され、職員の怪我・離職防止、介護中の事故防止が図られるとともに、入浴時間の効率化につながった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2名の重度身体障がい者を追加受入れ 	
<p>【参考写真】</p> 	

5. 車両購入

事例 5-1	社会福祉法人 すこう福祉会（長野県須坂市）
事業名	指定障がいサービス事業所「ワークハウスわらしべ」の豆腐製造部門における配達・販売用保冷車両の新規配備事業
事業種別	社会福祉の増進を目的とする事業
配分額	80 万円
<p>【事業内容】</p> <p>指定障がいサービス事業所の豆腐製造部門に配達・販売用保冷車両を新規に配備した。</p> <p>保冷車の導入により、鮮度の要求される商品（豆腐）のより一層の販路拡大に力を入れることが可能となった。製造能力は月産 2,000 丁のところ、従来は、夏場の月産を 1,200 丁程度に抑えていたが、1,500～1,600 丁に生産量を増やすことができた。</p> <p>豆腐製造部門の賃金合計は 2,022,190 円（2013 年度）→2,157,500 円（2014 年度）差額 135,370 円で約 6.7%の賃金アップにもつながった。</p>	
<p>【参考写真】</p> 	

事例 5-2	社会福祉法人 平川市社会福祉協議会（青森県平川市）
事業名	訪問入浴介護サービス専用訪問入浴車両の更改事業
事業種別	社会福祉の増進を目的とする事業
配分額	164 万円
<p>【事業内容】</p> <p>住み慣れた地域や家庭で生活を送る高齢者・障がい者等の方々が、自宅や公衆浴場での入浴が困難な場合に、専用車両を用いた入浴介護サービスを提供しており、老朽化して故障が頻発している車両の更改事業を実施した。</p> <p>訪問入浴専用車両を更改したことにより、車両・搭載機器のトラブル等による予定変更がなくなり、利用者に対する利便性・安全性が向上し、安定してサービスを供給できるようになった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者・障がい者への訪問入浴介護を月当たり平均 75 回実施（前年比 41.5%増） 	
<p>【参考写真】</p> 	

6. 東日本大震災の被災者救助・予防（復興）

事例 6	特定非営利活動法人 ビーンズふくしま（福島県福島市）
事業名	避難している子どもの学習・生活環境整備と地域コミュニティ再生のための復興支援事業
事業種別	東日本大震災の被災者救助・予防（復興）
配分額	500 万円

【事業内容】

不自由な居住環境の中、長引く避難生活を送る福島県沿岸部地域の子どもへ、学習を軸として、遊びやレクリエーションも加えた支援を実施。子どもの帰宅後の居場所、学習や遊びの場を継続的に確保し、子どもが安心して活動できる環境を提供した。

1 帰宅後の学習支援・夏季休業中の学習支援

福島市及び二本松市の 4 つの仮設住宅で未就学児、小中学生を対象に（他の仮設住宅及び借上げ住宅からの参加も受入れ）、帰宅後の学習支援を実施。各仮設住宅でほぼ週 2 回、年間計 232 回実施。登録者は合計 58 名。

また、夏休みの宿題対策としての学習支援を各仮設住宅で 4 回実施するとともに、大学生と連携して学習に遊びを加えた活動を実施した。

2 保護者説明会等

支援活動の内容や子どもたちの様子を共有し、保護者・仮設住民と一緒に子どもを育む体制を作るため、保護者説明会を各仮設住宅で年 4 回実施し、学習支援だよりを月 1 回発行した。

3 レクリエーション

子ども、保護者、仮設住民が力を合わせて楽しみながら活動することにより、仮設住宅でのコミュニティづくりの土台を築くことを目的とし、いわき市への遠足、もちつき大会、一年間を振り返る会等のレクリエーションを実施した。

4 ボランティア研修会

問題を共有し、ボランティアの質・個人のスキル向上を図るため、活動内容の振り返り、浪江町視察を行うなど、ボランティア研修会を 3 回実施し、のべ 40 名程度が参加した。

<子どものコメント「学習していてうれしかったこと」>

- ・勉強を分かりやすく教えてくれた。（多数）
- ・いろいろな人たちと友達になった。
- ・友達と一緒に勉強できた。

【参考写真】

